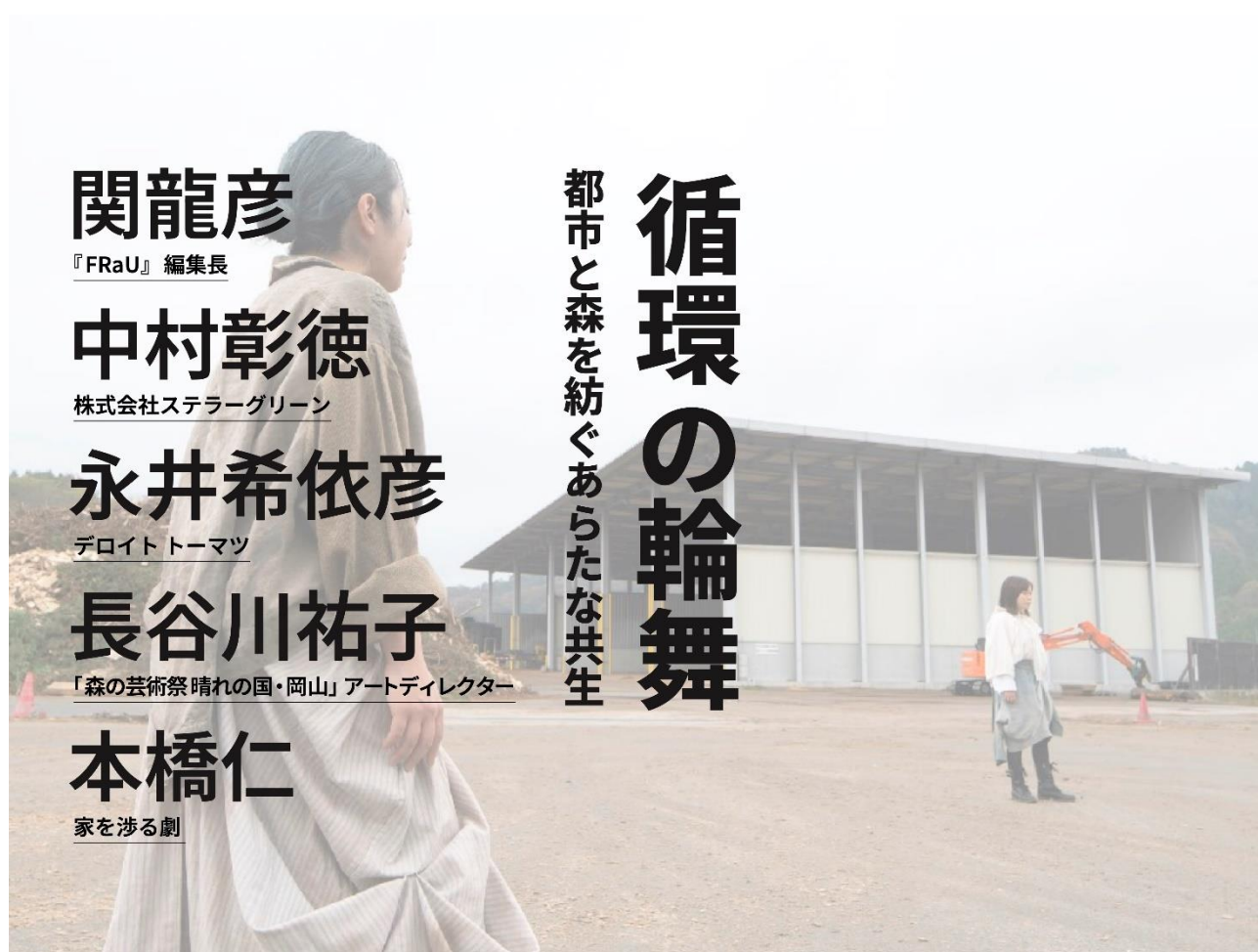


2025年2月25日
株式会社ステラグリーン

「森の芸術祭 晴れの国・岡山」主催
『バイオマス・マクベス』トークセッションにステラグリーンが登壇
～循環の輪舞～都市と森を紡ぐあらたな共生～

森林カーボンクレジット創出の支援事業を展開する株式会社ステラグリーン（本社：東京都中央区、代表取締役社長 兼 CEO：中村 彰徳、以下「ステラグリーン」）は、2025年2月21日（金）に開催した「森の芸術祭 晴れの国・岡山」主催の『バイオマス・マクベス』トークセッションに登壇しました。



■トークセッション開催背景

岡山県真庭市は 1993 年から地元事業者主導でバイオマスエネルギーの活用に取り組んでいます。この取り組みは地域資源を最大限に活用し、持続可能なエネルギー供給を目指す重要な試みです。特に真庭市のバイオマス発電は、森林保全とエネルギー問題解決のモデルケースとなっています。

真庭市ではバイオマス発電所を中心に、地域内の木材を余すことなく利用する循環型経済圏を構築し、環境保全とエネルギー問題の双方に取り組んでいます。

今回、真庭市のバイオマス発電や2024年11月に上演された「バイオマス・マクベス(※)」の取り組みを振り返り、都市と森の共生モデルを模索し、持続可能な未来に向けたアプローチを共有するためのトークセッションが開催されました。ステラーグリーンは、「バイオマス・マクベス」に企画段階より協力し、「森」がもたらす「恵み」を芸術の力で未来に向けて活性化するという森の芸術祭のテーマに賛同し協賛した背景があり、他の企業や団体と知見やノウハウを提供し合うことで、環境保護と持続可能な未来の実現に繋がりたいとの思いから、トークセッションに参加しました。

※2024年11月、「森の芸術祭 晴れの国・岡山」の一環として、演劇プロジェクト「バイオマス・マクベス」が上演されました。このプロジェクトは、シェイクスピアの名作『マクベス』を通じて現代の森が抱える問題やその可能性を描き出すことを目的とし発足され、ゲッコーパレード出張公演 家を渉る劇 vol.6 として上演されました。(https://geckoparade.com/whats-on/)

■トークセッション当日の様子



アートを通じて「森と人とのかかわり」が抱える問題について人々の感性を刺激し、共感を引き出すことに貢献したバイオマス・マクベス。当日のトークセッションでは、バイオマス・マクベスの成果を振り返り、その後企業やメディアがこの共感をどのように行動に結びつけ、社会に実装していくかについてのアプローチが話し合われました。

地域住民や企業、自治体など多様な参加者が一つの場で意見を出し合い、共通の目標に向けて連携する重要性を再確認しました。

ステラーグリーンは今回のトークセッションで得られた意見やアイデアを基に、持続可能な森林管理と地域社会の発展に向けた取り組みをさらに推進していきます。地域住民や企業、環境団体との連携を強化し、持続可能な未来の創造に向けた具体的なアプローチを進めていく予定です。



■森の芸術祭「バイオマス・マクベス」トークセッション概要

名称：循環の輪舞 都市と森を紡ぐあらたな共生

主催：「森の芸術祭 晴れの国・岡山」実行委員会

日時：2025年2月21日（金）13:30～15:00

場所：勝山木材ふれあい会館（岡山県真庭市三田 131）

登壇者：

講談社『FRaU』 編集長 兼 プロデューサー 関 龍彦

株式会社ステラグリーン 代表取締役社長 兼 CEO 中村 彰徳

デロイトトーマツリスクアドバイザー マネージングディレクター 永井 希依彦

森の芸術祭 晴れの国・岡山 アートディレクター 長谷川 祐子

家を渉る劇 企画者 本橋 仁

■株式会社ステラグリーンについて



STELLARGREEN

ステラグリーンは「自然の価値に、輝く道を。」を経営理念に、生物多様性を保全しつつ、最新のテクノロジーを活用して地域の自然資源を価値あるものに変換することで、持続可能な地域社会の構築を実現することを目指しています。

ステラグリーンは森林カーボンクレジットの生成から販売まで、成功報酬型のワンストップサービスを提供しています。また、専門性が求められる森林データの収集や申請書作成にも対応しており、森林カーボンクレジットの生成から販売まで多角的にサポートいたします。

株式会社ステラグリーン：<https://www.stellargreen.co.jp>